

# ふるさと納税がつくる 小郡の未来

自分のふるさとや自治体を寄附で応援する

「ふるさと応援寄附金(ふるさと納税)」。

小郡市では、このふるさと納税制度によって、

全国から年間6億円を超える寄附をいただいています。

小郡市に関心や愛着を持ってもらうきっかけになっているふるさと納税の今を紹介します。



## ふるさと納税の疑問

### そもそもどんな制度？



ふるさと納税は、出身地やゆかりの地などを応援するために作られた制度です。寄附行為にあたるため、一定の金額について税金の寄附金控除が受けられます。

自治体は寄附者に対し、お礼の気持ちとして地元の特産品などの返礼品を送ることができま。寄附者に喜んでもらえる返礼品を用意しようと、各地の自治体が頑張っています。

## ふるさと納税の疑問

### 何に使われているの？



小郡市は、ふるさと納税の寄附金を基金に積み立て、市の将来のために役立てています。

例えば、市民活動に取り組む人や団体を応援する「市民提案型協働事業」では、平成27年度以降、延べ43事業を支援しました。子どもたちの体験活動や高齢者の居場所づくりなど、数々の活動が生まれています。

## ふるさと納税の疑問

### 寄附額はどのくらい？



令和元年度、小郡市に全国から寄せられたふるさと納税は、6億4,868万円。寄附額は、年々増加しています。

またこれまでに、新型コロナウイルス対策として23万円(令和2年度)、豪雨災害支援として540万円(平成30年度〜令和2年度)が寄附されました。これらの寄附は、返礼品がないため、全額が寄附金として役立てられています。



▲市民提案型協働事業「つっこコ探検隊」では、子どもたちが伝統文化を体験

全国で人気

## おごおりの返礼品

寄附者には、感謝の気持ちを含めて返礼品を送っています。返礼品は、小郡の事業者や農業者の皆さんが作る、食べ物や工芸品、雑貨など。どれも小郡の土地で育まれた、地域に根差したもののばかりです。市外にお住まいのお知り合いの人に、ぜひ紹介してください。

また、ふるさと納税は、その収入で経営を安定させて新商品の開発にチャレンジしたり、リピーターを獲得して販路を拡大したりと、事業者にとっても力をつける場になっています。ふるさと納税をきっかけに地域との関わりを深め、まちの将来につながる新たな動きを見せている事業者を紹介します。



### 明太子のさかえや

取扱返礼品

辛子明太子、たらこなど

小郡市で創業した「明太子のさかえや」では、贈答用としても人気の辛子明太子を、厳選して寄附者に送っています。おいしさはそのまま、使い勝手の良い小分けサイズへの変更や、料理で使う需要に合わせたチューブ入りの商品開発など、工夫を重ねています。

令和元年8月から、店舗の2階の空間を、市の主催講座「おうち起業応援講座」の卒業生のグループに提供。シェアオフィスや販売・イベントスペースとして使える「orukenkonne(おるけんこんね)」が誕生し、自分のやりたいことや夢に向かって働きたい・活動したい人の拠点となっています。



### 荒巻養蜂場

取扱返礼品

国産はちみつ、はちみつ加工品 など

平方で、4代にわたって養蜂場を営んでいます。非加熱・無添加のこだわりのはちみつ生産と並行して、はちみつを使った料理の提供や雑貨の販売を行う「はちみつカフェ」も開設し、はちみつを楽しんでもらうための工夫を続けています。

昨年は、クラウドファンディングに挑戦。休耕地にれんげを植えて魅力的な景観を作り、さらにそのれんげを活用した商品開発に取り組みました。「れんげはちみつ」や、れんげを肥料にして有機栽培した「恋華米(れんげまい)」は、小郡の新たな特産品として期待されています。



## 「ふるさとチョイス大感謝祭」に出展しました

ふるさと納税受付用ウェブサイト主催の見本市「ふるさとチョイス大感謝祭」が、11月7日にオンラインで開催されました。小郡市は初めて出展し、返礼品を出品しているMorrow珈琲(小郡市横隈)の店舗から、返礼品や取組を紹介しました。視聴者からは、コーヒーの入れ方や寄附金の使い道など、質問や関心が寄せられました。



### 注意事項

- 市内在住者には、返礼品を送ることはできません
- ふるさと納税の寄附金の搾取を目的とした偽サイトが横行しています。寄附は市ホームページからどうぞ！

☎ 商工・企業立地課 商工観光係 ☎ 72-2111



◀ 市ホームページ  
「ふるさと応援寄附金  
(ふるさと納税)」